

お薬手帳が入院時の持参薬・使用薬の確認業務に及ぼす影響とその医療経済学的評価

お薬手帳は患者の医薬品に関する情報を一元管理することができるため、患者の薬歴確認を行う上で重要なツールです。薬局や診療所で薬歴確認を行う際だけでなく、患者の入院時に持参薬（入院時に持ってきた薬）や使用薬（入院時に使用していた薬）を確認する際にも、お薬手帳は非常に有用です。そのため、入院時のお薬手帳の未持参は医療関係者の持参薬・使用薬の確認業務の負担を増大させることが想定されます。お薬手帳が入院時の医療関係者による持参薬・使用薬の確認業務に及ぼす影響を医療経済的観点から明らかにするために、入院時におけるお薬手帳の有無で確認業務の時間および費用を比較検討しました。また、年間のお薬手帳による人件費の効率化の試算も併せて行いました。

調査対象は、平成 26 年 11 月 1 日～11 月 14 日に岐阜市民病院に入院した患者の持参薬・使用薬を確認した医療関係者としてしました。調査項目は、患者の年齢・性別、入院時のお薬手帳の有無、持参薬の有無、使用薬の有無、持参薬・使用薬を確認した医療関係者、確認方法、確認に要した時間（患者への聞き取りから電子カルテ記入・添付まで）としてしました。評価として、入院時に持参薬あるいは使用薬があった患者を対象に、お薬手帳の有無で持参薬・使用薬の確認に要した医療関係者の時間および費用を比較しました。

入院患者 514 人のうち、入院時に持参薬と使用薬の両方がなかった患者 142 人を除外しました。解析対象患者は 372 人で、お薬手帳持参患者（持参有患者）は 157 人、お薬手帳未持参患者（持参無患者）は 215 人でした。

持参薬や使用薬の確認にかかった医療関係者の時間および費用を表 1 に示します。薬剤師の業務負担時間は持参無患者に比べて持参有患者の方が有意に短く、費用は持参無患者に比べて持参有患者で有意に小さくなりました。また、看護師の業務負担時間は持参無患者に比べて持参有患者の方が有意に短く、費用は持参無患者に比べて持参有患者で有意に小さくなりました。薬剤師と看護師の合計の時間は持参無患者に比べて持参有患者で有意に短く、費用は持参無患者に比べて持参有患者で有意に小さくなりました。

年間のお薬手帳による人件費の効率化の試算したところ、年間のお薬手帳による人件費の効率化の概算額は、岐阜市民病院で 116 万円、全国では 12.6 億円でした。

表 1 持参薬や使用薬の確認にかかった医療関係者の時間および費用

	お薬手帳		P
	持参有患者	持参無患者	
薬剤師	(n = 134)	(n = 171)	
業務負担時間	10.3±9.1分	13.6±18.4分	0.038*
業務負担費用	370.4±329.1円	492.0±665.3円	0.038*
看護師	(n = 99)	(n = 161)	
業務負担時間	6.8±6.6分	11.4±16.2分	0.002*
業務負担費用	214.3±206.3円	356.7±507.3円	0.002*
薬剤師と看護師の合計	(n = 157)	(n = 215)	
業務負担時間	13.1±10.5分	19.4±25.8分	0.001*
業務負担費用	451.2±366.2円	658.4±880.3円	0.002*

Welchのt検定、*P<0.05

本研究では、入院時のお薬手帳持参により、持参薬・使用薬の確認業務の時間が短縮され、確認業務の費用が縮小されることが明らかになりました。また、入院時にすべての患者がお薬手帳を持参するようになると仮定すると、岐阜市民病院では年間116万円、全国では年間12.6億円の人件費が効率化できると概算されました。実際には、効率化できた時間を患者のケアなどに充てることができると考えられます。

【発表論文】

舘知也，齊藤康介，江崎宏樹，吉田阿希，林勇汰，杉田郁人，野口義紘，福田聖啓，安田昌宏，水井貴詞，後藤千寿，寺町ひとみ，お薬手帳が入院時の持参薬・使用薬の確認業務に及ぼす影響とその医療経済学的評価，日本病院薬剤師会雑誌，52，1367-1370，2016.